

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-32555

(43)公開日 平成6年(1994)2月8日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号 庁内整理番号  
B 66B 7/00 G 9243-3F  
E 04G 1/36 B 7228-2E  
21/18 C 7228-2E  
B 7228-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁)

(21)出願番号

特願平4-186928

(22)出願日

平成4年(1992)7月14日

(71)出願人 000232955

株式会社日立ビルシステムサービス  
東京都千代田区神田錦町1丁目6番地

(72)発明者 国藤 和夫

東京都千代田区神田錦町1丁目6番地 株  
式会社日立ビルシステムサービス内

(74)代理人 弁理士 武 順次郎 (外2名)

(54)【発明の名称】 エレベータの作業床

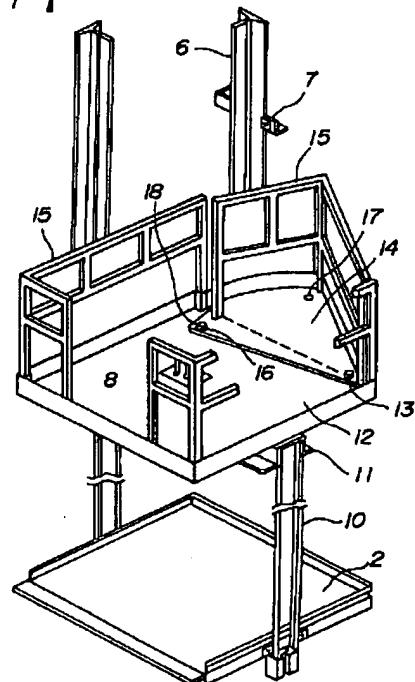
(57)【要約】

【目的】 簡単な構造で広い作業空間を得ることのできるエレベータの作業床を提供する。

【構成】 エレベータの昇降路内を昇降可能なエレベータの作業床において、ワイヤロープ8によって懸垂される作業床本体12と、この作業床本体12に装着され、支点13を中心として昇降路1の壁面1a方向への回動が可能な補助作業床14とを備えている。

【効果】 製作原価の削減、および作業効率の向上を図ることができる。

【図1】



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】エレベータの昇降路内を昇降可能なエレベータの作業床において、ワイヤロープによって懸垂される作業床本体と、この作業床本体に装着され、支点を中心として上記昇降路の壁方向への回動が可能な補助作業床とを備えたことを特徴とするエレベータの作業床。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、エレベータの昇降路内の機器や部材の取付けに際し用いられるエレベータの作業床に関する。 10

## 【0002】

【従来の技術】エレベータの据付け工事等にあっては、昇降路内の壁面等に、例えば乗かごやつり合いおもりを案内するガイドレールを固定するブラケットなどの各種の機器および部材が取付けられる。このような取付作業は作業者が作業床に乗って行なうが、作業者の手が上記壁面に届かなくてはならないため、壁面まで作業床を張り出す必要がある。そして、従来のエレベータの作業床として、例えば実開昭63-31070号公報に記載されるものを挙げることができる。 20

【0003】図3は従来のエレベータの作業床を示す斜視図、図4は図3の作業床の平面図である。

【0004】従来のエレベータの作業床は、昇降路1内に配設される本設用の乗かご床2の上に固定される固定部3a、および固定部3aに摺動自在に係合される摺動部3bを有するスライドベース3と、摺動部3b上に設置される作業床4とが備えられている。そして、例えば図4に示すつり合いおもり5を案内するガイドレール6を固定するブラケット7を壁面1aに取付ける場合、図3に示すように作業床5を壁面1a方向に摺動させて作業を行なうようになっている。これにより、作業の安全と能率の向上をはかることができる。 30

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】ところで、上述した従来のエレベータの作業床では、スライドベース3の係合機構や、スライドベース3を乗かご床2あるいは作業床5に取り付けるための多数の部材が必要になることから、構造が複雑で製作に時間がかかり、製作原価が高くなるという問題がある。また、作業床5を昇降路1の壁面1a方向に摺動させて作業を行なえるものの、作業床5の形状は限られており、作業空間に制約を受けるという問題もある。

【0006】本発明はこのような従来技術における実情に鑑みてなされたもので、その目的は、簡単な構造で広い作業空間を得ることのできるエレベータの作業床を提供することにある。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するため本発明は、エレベータの昇降路内を昇降可能なエレベー 50

2

ータの作業床において、ワイヤロープによって懸垂される作業床本体と、この作業床本体に装着され、支点を中心として上記昇降路の壁方向への回動が可能な補助作業床とを備えた構成にしてある。

## 【0008】

【作用】本発明は上記のように構成したので、ワイヤロープによって懸垂される作業床本体は、上記ワイヤロープの移動に伴い昇降路内を昇降するとともに、補助作業床を装着しており、この補助作業床は通常時、上記作業床本体に収納されている。そして、作業床本体に補助作業床が収納された状態では作業者の手が届かない作業が要される場合、上記の補助作業床を支点を中心として上記昇降路の壁方向へ回動させ、この補助作業床により作業者は作業をするようになっている。これによって、従来の作業床のようにスライド部材を要することがないとともに、作業床本体と補助作業床のそれぞれで作業が可能となるので、簡単な構造で広い作業空間を得ができる。

## 【0009】

【実施例】以下、本発明のエレベータの作業床の実施例を図に基づいて説明する。図1は本発明のエレベータの作業床の一実施例を示す斜視図、図2は図1の作業床の平面図である。なお、上述した図3、図4に示すものと同等のものには同一符号を付してある。すなわち、1は昇降路、1aは壁面、2は乗かご床、5はつり合いおもり、6はガイドレール、7はブラケットである。

【0010】本実施例のエレベータの作業床は図1に示すように、ワイヤロープ8によって懸垂され、乗かご床2の側部に立設するかご枠10の上部に位置するクロスヘッド11上に配設される作業床本体12と、この作業床本体12に装着され、支点13を中心として図2に示す昇降路1の壁面1a方向への回動が可能な補助作業床14とが備えられている。また、作業床本体12、および補助作業床14の縁部に立設される手摺り15と、扇形状をなす補助作業床13の支点13とは異なる他の角部にそれぞれ形成される穴16、17と、作業床本体12に形成され、穴16、17と対向可能な図示しない穴と、これらの穴16、17に挿入されるストッパピン18とが設けられている。 40

【0011】この実施例にあっては、ワイヤロープ8の移動により乗かご床2、かご枠10、クロスヘッド11、作業床本体12、補助作業床14が一体的に昇降路1内を昇降するが、通常時、つまり、昇降路1内の機器の据付けに際し壁面1aまで作業者が手を伸ばす必要がない場合は、図2の破線によって示すように作業床本体12に補助作業床14を収納するとともに、補助作業床14の穴17と作業床本体12に形成される穴とにストッパピン18を挿入して補助作業床14を固定し、この状態で所定の作業が行なわれる。一方、例えばガイドレール6を固定するブラケット7を取付けるときのように

3

壁面1aまで作業者が手を伸ばすことを要する場合は、図1および図2の実線で示すように、補助作業床14を支点13を中心として壁面1a方向へ回動させるとともに、補助作業床14の穴16と作業床本体12に形成される穴とにストッパピン18を挿入して補助作業床14を固定し、この補助作業床14上にて作業を行なうようになっている。

【0012】このように構成した実施例では、従来の作業床のようにスライド部材を要することがないとともに、補助作業床14を回動させることによって作業床本体12と補助作業床14とのそれぞれで作業を行なうことができる、簡単な構造で広い作業空間を得ることができる。

【0013】なお、昇降路1内に取付ける機器および部材が長尺である場合などにあっては、あらかじめ補助作業床14を回動させた状態として、作業床本体12と補助作業床14とのそれぞれに上記機器および部材を積載可能とすることもできる。

【0014】

4

【発明の効果】本発明は以上のように構成したので、簡単な構造で広い作業空間を得ることができ、これによって、製作原価の削減、および作業効率の向上を図ることができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のエレベータの作業床の一実施例を示す斜視図である。

【図2】図1の作業床の平面図である。

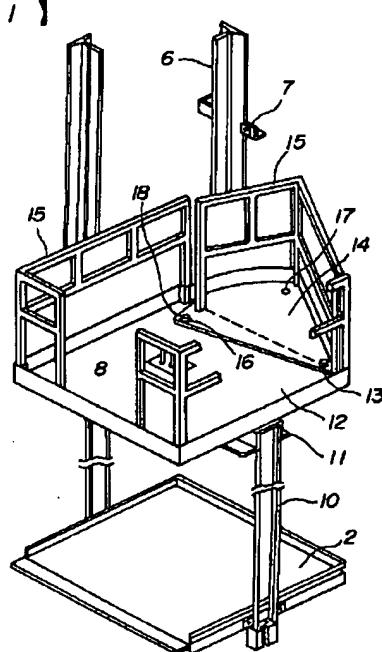
【図3】従来のエレベータの作業床を示す斜視図である。

【図4】図3の作業床の平面図である。

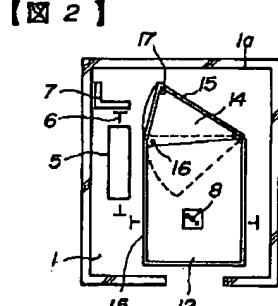
【符号の説明】

- 1 昇降路
- 8 ワイヤロープ
- 12 作業床本体
- 13 支点
- 14 補助作業床
- 16、17 穴
- 18 ストッパピン

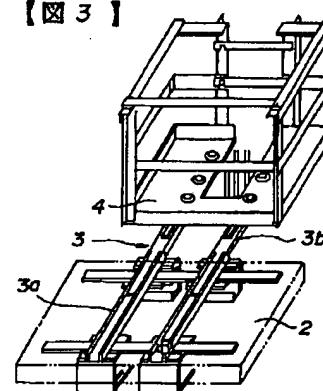
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

